

SARS-CoV-2のスパイクタンパク質をヒトの核で発見



7 3件のコメント



ピーター・A・マツ
カロー

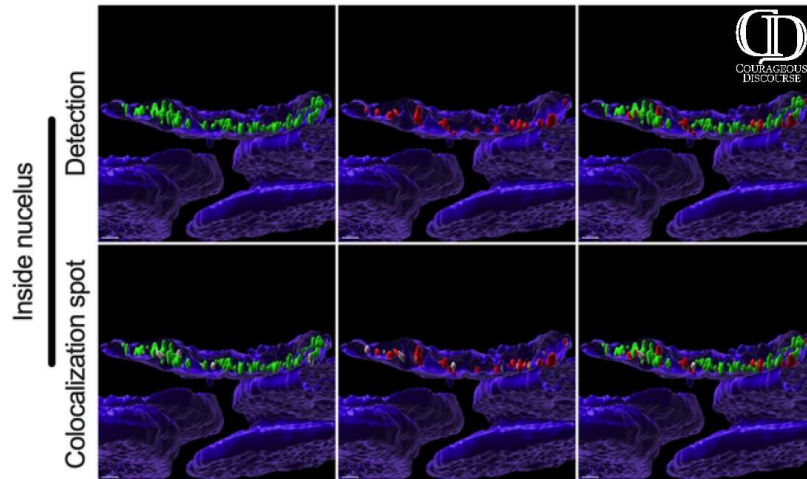
-で|||||。

2022年11月15日12:00から

オピニオン記事



Sattarらが米国国立衛生研究所（NIH）の科学者と共同で発表した最近の論文では、mRNAとスパイクタンパク質の両方がヒト細胞の核内に共局在していることが報告されている[i]。[i]



ヒト核内のmRNAとSpikeタンパク質の共局在化。 Sattar S, Kabat J, Jerome K, Feldmann F, Bailey K, Mehedi M. Spike mRNAとタンパク質の核内移行は、SARS-CoV-2の新しい病原性特徴である。

bioRxiv [Preprint].2022年9月27

日:2022.09.27.509633. doi:

10.1101/2022.09.27.509633.PMID: 36203551;

PMCID: PMC9536038.

著者らは、これは珍しいことであり、スパイクタンパク質の細胞内への侵入に必要なフリン切断部位に依存していないように見えると述べている。この論文の背景と方法は、SARS-CoV-2を利用したものであり、mRNAやアデノウイルスDNAワクチンを利用したものではないことに注意することが重要である。しかし、この発見の意義は計り知れない。これまで発見された中で最も病原性と致死性の高いタンパク質の両方が、その遺伝暗号とともにヒト細胞の核の中で

発見されたことは、驚くべき発見といえるでしょう。この論文は、プレプリントサーバー

bioRxivにアップロードされましたが、まだ査読を受ける必要があります。

SinghとSinghによる先行論文では、スパイクタンパク質のモデルが腫瘍抑制遺伝子P53とBRCA1との相互作用を予期していることが示された[[ii](#)]。Sattarは、これが実際に起こりうると述べている！したがって、スパイクタンパク質は発癌の可能性や新生癌細胞に対する免疫監視がうまくいかないことの現場にあるのである。セネフらは、スパイクタンパク質が細胞の老化とオートファジーに関連している可能性を予測している[[iii](#)]。[[iii](#)]。

つまり、細胞の老化がより早く進み、やがてプログラムされた細胞死が起こることです。私は多くの患者さんから、「なぜCOVID-19の病気になると筋肉が落ちたり、髪の毛が抜けたりするのか」という質問を受けたことがあります。これらの観察から、おそらく細胞レベルでの議論に何らかの説明の根拠を与えることができると思います。

最後に、最も気になるのは、Nunez-Castillaらが、Spikeタンパク質が他の約30のヒトタンパク質と相同性を持つことを証明したことだ[[iv](#)]。[SARS-CoV-2の遺伝暗号は、意図的に「ヒト化」されたものなのだろうか？

ランド・ポール上院議員は、例えば武漢ウイルス研究所での機能獲得研究への資金提供を通じて、SARS-CoV-2のエンジニアリングに米国政府が関与している可能性に焦点を当てた素晴らしい仕事をしているが、前臨床の科学者や生物医

学高等研究開発局（）やNIHの職員にもっと突っ込んだ質問をし、彼らがmRNA、スパイクタンパク質、SARS-CoV-2の感染時および長期にわたるヒト細胞への危険性についてどれだけ知っているかを明らかにする必要がある。

[Sattar S, Kabat J, Jerome K, Feldmann F, Bailey K, Mehedi M. Spike mRNA とタンパク質の核内移行は SARS-CoV-2 の新しい病原性特徴である。

2022年9月27日:2022.09.27.509633. doi:

10.1101/2022.09.27.509633.PMID: 36203551;

PMCID: PMC9536038.

[SARS-nCoV-2 の S2 サブユニットは、腫瘍抑制タンパク質 p53 および BRCA と相互作用する：

in silico study.Transl Oncol.2020 Oct;13(10):100814.

doi: 10.1016/j.tranon.2020.100814.Epub 2020 Jun

30.PMID: 32619819; PMCID: PMC7324311.

[iii] Seneff S, Nigh G, Kyriakopoulos AM, McCullough PA.SARS-CoV-2 mRNAワクチン接種による自然免疫抑制。G-quadruplexes、エキソソーム、およびMicroRNAsの役割。Food Chem Toxicol.2022

Jun;164:113008. doi:

10.1016/j.fct.2022.113008.Epub 2022 Apr 15.PMID:

35436552; PMCID: PMC9012513.

[SARS-CoV-2 スパイクとヒトタンパク質間の分子模倣に起因する自己免疫の可能性。

Viruses.2022;14(7):1415.2022年6月28日掲載

doi:10.3390/v14071415

ピーター・マッカロー博士とジョン・リークも *Courageous Discourse* で執筆しています。

参考文献

🔗 サブスタック

質の高いジャーナリズムを作るには、お金がかかる。

ログイン（無料）

購読オプションを見る

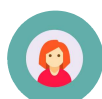
月10本まで無料で閲覧可能

月々5ドルからの定期購入が可能です。
スターバックスのコーヒーより安い！



Peter Gabriel 医学博士

"TrialSiteに掲載することで、2000万円の研究費を確保することができました。"



ジョナ・サビンダ



**"TrialSiteNewsは、業界で何が起
っているかを知るために、私が毎日読ん
でいるものです。"**



ルーカス・ヴァン・デル・ホーヴェン

**"Objective, unbiased reporting on the
latest news in medical research. I trust
TrialSiteNews to give it to me
straight."**

Company

[About Us](#)
[Terms of Service](#)
[Privacy Policy](#)
[Contact Us](#)

TrialSiteNews

159 W Broadway, Suite 200
Salt Lake City, UT 84101

Publish on TrialSite

[Writing Best Practices](#)
[Why TrialSite?](#)

© 2022 - Trial Site News

